

中野清香さん

1918(大正7)年9月28日生まれ

陸軍 独立工兵第37連隊

主な戦地 東部ニューギニア



- 1939(昭和14)年1月10日 徴兵検査に合格し入隊、中国に従軍

- 1943(昭和18)年4月 独立工兵第37連隊で東部ニューギニアのハンサに上陸

- 1943(昭和18)年5月 機材を船でマダンに運ぶが飛行機から機銃掃射を受け沈没

甲板で身を隠す場所もなく頭を上げる間もない。周りに水柱が立ち、滝のような水が落ちてくる気を失ったが、火が上がり熱気で気付いた。飛び込んでも兵隊めがけて撃ってくる約半数の兵隊が亡くなり、部隊は機材、弾薬、食糧などをすべて失った。自身も丸腰に翌日から食糧の配給は既定の3分の1に。飯盒などは再支給された。

- マダンからラエに自動車道路を作りながら移動

春菊を海水で洗って味を付け煮る。パパイアの根っこを小さなものも全部掘っておろして食べる

- 1943(昭和18)年9月 米軍がラエ近郊、さらにフィンシハーヘンに上陸

51師団のラエからの撤退を支援、歡喜嶺(かんきりい 日本語の地名)で受け入れる予定だったが米軍の落下傘部隊が間において撤退させられず、51師団はサラワケット山脈を越えての撤退にさらに20師団もフィンシハーヘンからマダンへ山中を撤退

- 1943(昭和18)年11月頃 連隊本部の書記になり戦闘・工事には出ない職務に

- アマーバ赤痢に罹患

マダンからコシャコシャ(ハンサ近く)へ夜行軍を行い、着くと同時に発病。マダンに近いので米はあった40日寝込むが、ちょうど部隊の移動がない時期と重なったことと、兵隊が面倒をみてくれて助かる部隊に取り残されたら生きて帰れないので、いつ出発になるか恐れていた

- 1944(昭和19)年4月 ウエワクに行く船が攻撃を受け座礁

部隊は歩いての移動だったが、体力が戻っていないので書類宰領者として船で移動ウエワク手前で爆撃を受け、第1艇では師団長が死亡、第2艇は5000体の遺骨が沈む乗っていた第3艇は砂浜に乗り上げ、海に飛び込み浜を這って逃げ、溝に倒れこんだ再び全部の装備を失う

- 1944(昭和19)年7月～8月 アイタペ作戦に

そのままウエワクにいても食糧が支えきれない、どうせそれならと作戦になったらしい半病人が作戦に必要な物資を運んだが、一斉攻撃を受け、日本軍の大砲は全門無くなる自分たちは後方部隊だが、ここで完全にコメが無くなり、有線通信もなくなって伝令の行き来だけに遺体と一緒に寝ながら退却。水たまりに兵隊がいても助け起こす者がいない。皆よけて通るサゴヤシのでんぷんを主食に、ジャングルフキ、パンの実、イナゴ、野ネズミなどを食べる

- マラリアを発症

- セピック河周辺の部落で警備と称して駐屯 部落民が食糧を集めて世話をしてくれた

- 1945(昭和20)年 もう一度前線に行くよう命令でパパラムに移動したところで終戦

足があがらなくなりズボンを引っ張り這うように歩いていた。大木が転がっていると超えられない。

- 豪州軍による武装解除の後、ムシュ島に収容

- 1946(昭和21)年1月23日 巡洋艦酒匂で横須賀に復員

(2018年7月22日取材)